

## チーム医療：NST 回診（栄養サポート委員会）

### —概要—

病院長より、患者さんの入院中の楽しみとして重要な位置を占める病院食について、「日本一美味しい病院食」を目指すよう依頼があり、当委員会の柱の一つとなっている。

また、外来レベルの「術前栄養サポート」も患者さんの体力維持、術後早期回復、在院日数短縮、費用削減のために重要と考えられ、当委員会の柱の一つとなっている。2016年度の総NST回診件数は、りんくう総合医療センター591件、泉州救命救急センター258件であった。

現在、栄養サポートチーム加算を算定できるようになっている。これには、長年のNSTの各メンバーによる努力が大きい。保険医、看護師、薬剤師、管理栄養士それぞれが資格を有し、共同して診療を行うことが必要であり、栄養評価指標のための検査環境を整備し、患者説明の充実を果たし、患者さんと顔を合わせる回診内容を模索し、言語聴覚士等の協力を仰ぎ、各方面からの協力により成り立っている。本年度は、合計524件の栄養サポートチーム加算を算定できた。

当院は日本静脈経腸栄養学会の栄養サポートチーム専門療法士認定教育施設であり、2016年度はNST専門療法士研修会を1回開催し、計4名の参加を得た。

また、当院は泉州地区NST研究会の代表世話人を務めてきている。さらに、日本静脈経腸栄養学会のNST専門療法士認定制度において泉州地区NST研究会が認定されており、参加することによって2単位を取得できるようになっている。2016年11月5日には第23回、2017年3月4日には第24回泉州地区NST研究会が行われた。

院内ではNST勉強会が2回行われ、栄養の基礎知識や最新情報の提供が行われた。NST運営委員会には、栄養アセスメントグループ、マニュアルグループ、セミナー学習会グループ、摂食・嚥下ワーキンググループが存在し、それぞれ真剣に取り組んでいる。

### 当院NSTにおける現在の問題点と新しい流れ

1. 低栄養で嚥下にかかわる筋肉の機能低下が起こると嚥下困難となり、低栄養がさらに進むという悪循環に陥り、誤嚥性肺炎も起こりうる。摂食・嚥下グループを中心に、嚥下の評価を行い、栄養を維持して嚥下筋の機能低下を防ぎ、また改善させ、悪循環からの脱却を目指している。
2. ERAS (Enhanced recovery after surgery) プログラムが広く行われるようになり、術後早期にリハビリを行うようになって

きたが、低栄養状態でいきなり行うリハビリは、かえって筋蛋白の分解をまねく。リハビリは栄養状態の維持とあわせて強度を上げていくのが理想的である。

3. 侵襲の大きな手術に先立って、術前に栄養状態を持ち上げ、術前リハビリで筋力アップをはかると、術後の回復が早く、合併症も減少する等の報告がなされてきている。術前に介入するために、外来レベルのサポートを目的とし、他分野（リハビリ、全身麻酔・術前のチェック・管理、薬剤管理、口腔ケア、精神サポート、医療事務等）との協力体制を構築するため、周術期サポートセンターの立ち上げを模索している。
4. 脂肪製剤の利用は、糖質中心の栄養輸液に比べて単位水分あたりの熱量が高いために、水分負荷の軽減となり、心不全や腎不全時に利点があり、ブドウ糖に比べてCO<sub>2</sub> 産生量が少ないために呼吸不全に利点があり、インスリン非依存性であるために耐糖能低下時に利点がある。さらに、脂肪は心筋や骨格筋のメインのエネルギー源であり、心疾患、リハビリを要する患者さんには重要と考えられる。脂肪の投与が細網内皮系をブロックして免疫に影響を与えるとの報告もあるが、投与スピードをコントロールすれば問題ないと考えられている。当院では、脂肪乳剤の使用がまだまだ普及しておらず、啓蒙活動が必要と考えられる。

### —実績—

NST回診件数

	チームりんくう	チーム救命
4月	60 (50)	30
5月	48 (35)	12
6月	47 (43)	29
7月	62 (61)	25
8月	47 (42)	36
9月	54 (50)	20
10月	42 (39)	21
11月	46 (40)	0
12月	39 (35)	29
1月	44 (40)	10
2月	48 (43)	30
3月	54 (46)	16
合計	591 (524)	258

※( )は加算件数

NST勉強会

開催日	テーマ	講師	場所
10月20日 (木)	『褥瘡の深度、初期対応、ドレッシング剤の種類と使い方』	看護局 高橋敏江先生	大会議室
2月16日 (木)	『サルコペニアと嚥下障害』	リハビリテーション科 高田晃宏先生 宮本誠一郎先生 中口郁夫先生 看護局 西村紗希先生	大会議室

## NST専門療法士研修会

### 【院外】

	開催期間	施設名	職種/人数
〈前期〉	6月2日～6月10日	堺市立総合医療センター	薬剤師/1名
		馬場記念病院	看護師/1名

### 【院内】

	開催期間	職種/人数
〈前期〉	6月2日～6月10日	看護師/2名
		薬剤師/1名

## 泉州地区NST研究会

開催日	開催内容	講師	参加者数
第23回 11月5日 (土)	＜一般演題＞		57名
	『肥満関連腎症における食事制限の効果』	りんくう総合医療センター 腎臓内科部長 兼血液浄化センター長 坂口俊文 先生	
	『治療困難であった褥瘡患者にアルギニン高配合濃厚流動食を使用し治療を得た一例』	堺若葉会病院 栄養課主任 西村雄二 先生	
	『病院栄養士の存在意義とは？』	大阪労災病院 栄養管理部 管理栄養士 西條 豪 先生	
	＜特別講演＞		
	『急性期の栄養療法の始め方』	泉州救命救急センター 泉野浩生 先生	
第24回 3月4日 (土)	＜一般演題＞		52名
	『当院における Clostridium difficile infection治療薬の実態調査』	岸和田徳洲会病院 薬剤部 敦見真由美 先生	
	『積極的栄養管理が困難な症例に対してベクチン含有濃厚流動食を使用し褥瘡が治癒した1症例』	いぶきの病院 栄養科 山崎朝子 先生	
	『効果的な褥瘡治療をめざして～コラーゲンペプチドの効果～』	堺温心会病院 管理栄養士長 房 晴美 先生	
	『口腔ケアチーム介入により経口摂取が可能となった症例』	市立岸和田市民病院 歯科衛生士 廣谷孝子 先生	
	『末梢静脈栄養中の血管痛がヘパリンNa使用で緩和された1症例』	りんくう総合医療センター 薬剤部 若林里絵 先生	
	＜特別講演＞		
	『食べられる口をCREATEするためのオーラルマネジメント』	兵庫医科大学 歯科口腔外科学 主任教授 岸本 裕充 先生	



NST回診風景



NST勉強会風景

### —今年度の成果と反省点—

当院は日本静脈経腸栄養学会の栄養サポートチーム専門療法士認定教育施設であったが、認定医不在となったため資格停止状態となった。幸い、委員長飯干が認定医資格を得ることができ、再び資格をえることができた。認定施設維持のための条件を確認し、整備を怠らないことが反省点である。

### —来年度への抱負—

常に知識の吸収、技術の研磨を怠らないよう、学会発表に積極的に参加していきたい。